

# 初乗り距離短縮運賃のためのデータ 収集と実態調査について

平成27年9月29日

一般社団法人 東京ハイヤー・タクシー協会  
経営委員会 担当副会長 佐藤雅一  
委員長 西澤明洋

# 実態調査のデータ収集方法

- 収集期間 2014年10月1日～11月30日

- 検証方法

矢崎総業開発の検証システム（バージョン2）を使用。  
大手、準大手、各無線協組など幅広い事業所を地域も考慮した2,667台/22事業所より提供された約285万営業回数のデジタデータを基に実態調査をした。

なお、2014年12月1日～2015年8月31日までのデータも収集されており、順次調査可能なデータに変換作業を行っている最中である。

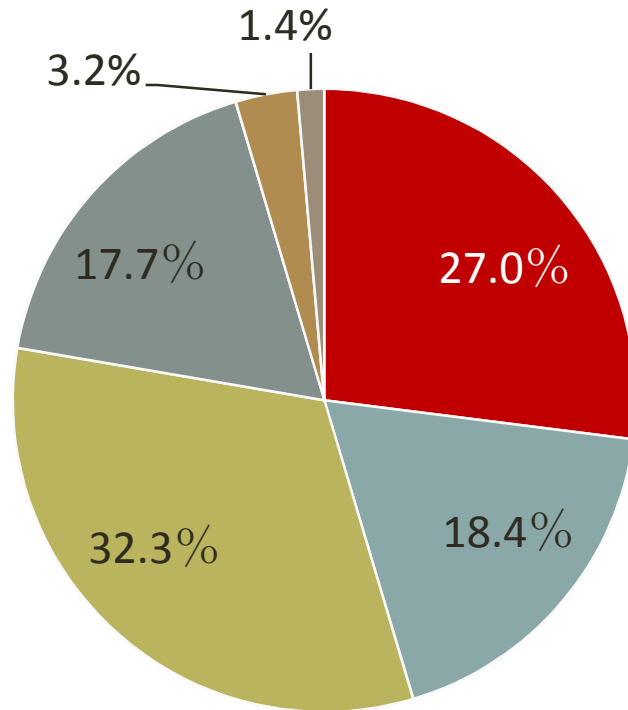
- カテゴリの分類方法

1. 営業時間帯 05:00-12:59 / 13:00-21:59 / 22:00-04:59
2. 営業区域
  - A) 全区域 東京特別区武三地区にて乗車（下記B+C）
  - B) 住宅地エリア 足立、葛飾、江東、江戸川、墨田、大田、杉並、世田谷、練馬、板橋三鷹、武蔵野で実車になった営業回数が1勤務で60%以上あった車両を対象
  - C) 都心エリア 全区域から(B)を除いた車両を対象

# 実態調査結果①

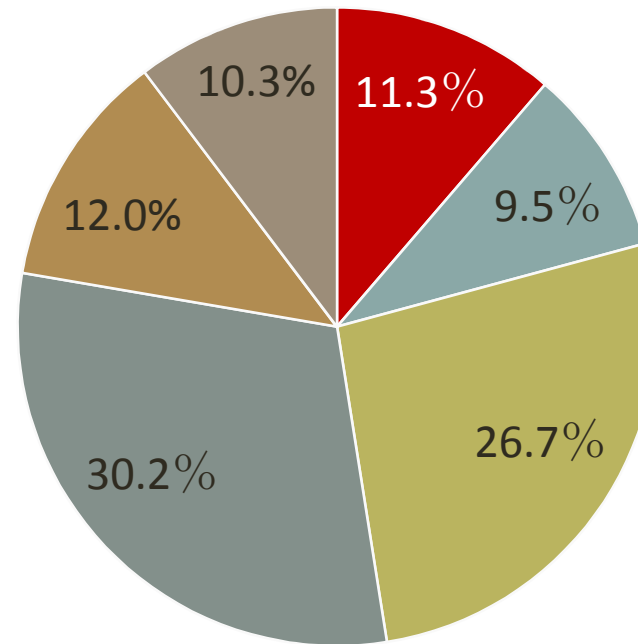
- ・営業回数に占める初乗り比率27%に対し売上比は11%強。
- ・2千円以上の回数比は約22%に対し売上比は50%以上。

営業回数割合



- 初乗割合
- 1000円超え2000円以内割合
- 5000円超え9000円以内割合

税込營收割合

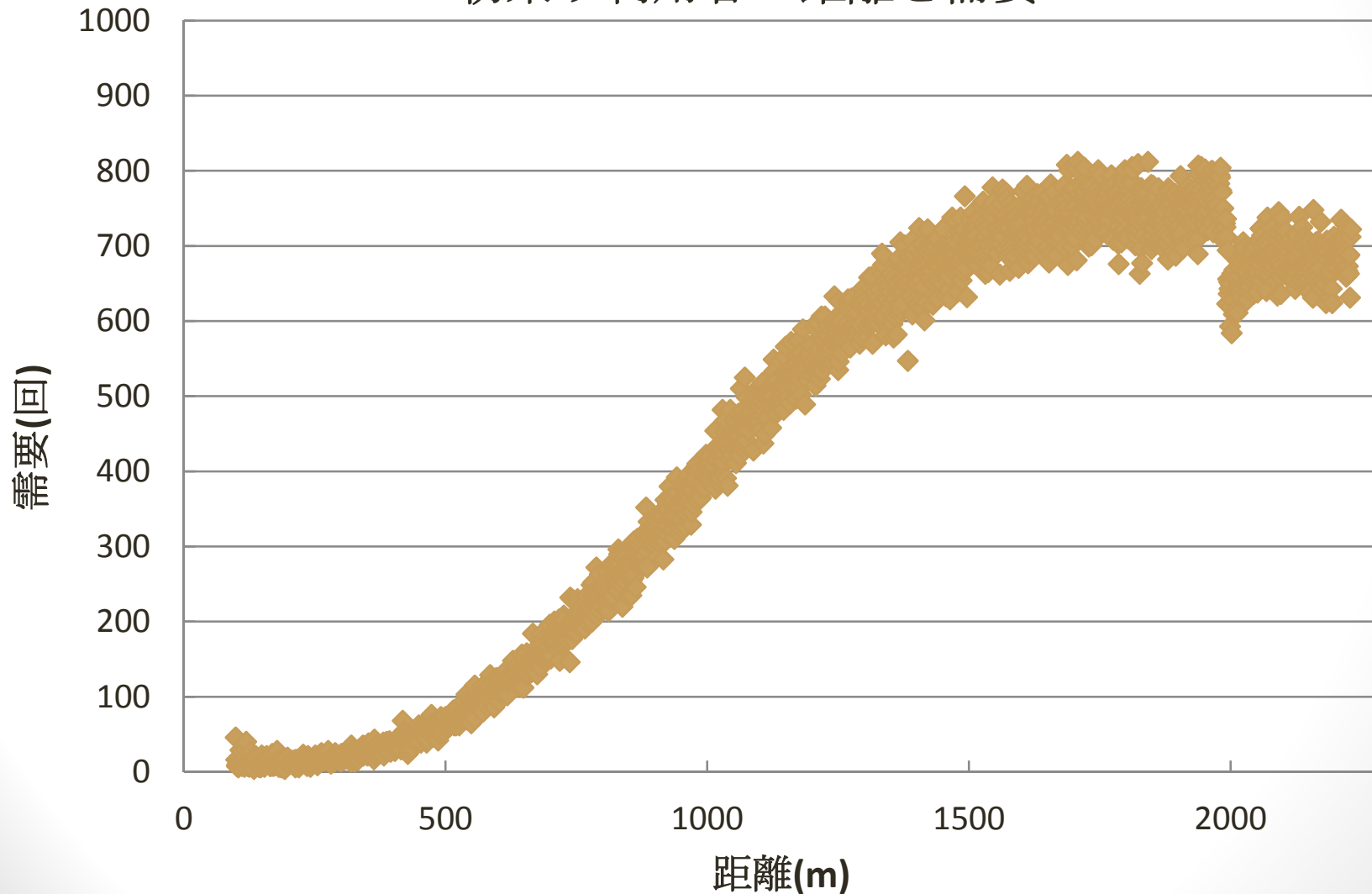


- 初乗超え1000円以内割合
- 2000円超え5000円以内割合
- 上記5つを除いた割合

# 実態調査結果②

- ・初乗り利用者の平均乗車距離（距離時間併用）は1.41km。
- ・所謂「乗り捨て」分は無視できないボリュームである。

## 初乗り利用者の距離と需要



# 実態調査結果③

- ・住宅地の初乗り割合は高く、その分減収率も高い。
- ・減収面での地域格差は明白。
- ・全域共通し昼間の初乗り割合高いため減収率も高い。

		時間帯											
総初乗り回数：	769,338	5:00-12:59			13:00-21:59			22:00-4:59			合計		
		全体回数	初乗り回数	割合	全体回数	初乗り回数	割合	全体回数	初乗り回数	割合	全体回数	初乗り回数	割合
エリア	住宅地 (B)	173,360	58,998	34.03 %	241,541	86,255	35.71 %	128,511	27,622	21.49 %	543,412	172,875	31.81 %
	都心 (C)	709,855	214,451	30.21 %	1,055,448	302,472	28.66 %	542,070	79,540	14.67 %	2,307,373	596,463	25.85 %
	全区域 (A)	883,215	273,449	30.96 %	1,296,989	388,727	29.97 %	670,581	107,162	15.98 %	2,850,785	769,338	26.99 %

※住宅地エリア：足立、葛飾、江東、江戸川、墨田、大田、杉並、世田谷、練馬、板橋、練馬、三鷹、武蔵野で実車になった営業回数が1勤務で60%以上あった車両を対象。  
 ※都心エリア：全区域から住宅地エリアを除外した区域  
 ※100m以下の回数は除外